

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2015-85159

(P2015-85159A)

(43) 公開日 平成27年5月7日(2015.5.7)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 1 H 39/04 (2006.01) A 6 1 H 39/04 H 4 C 1 O 1

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願2013-238292 (P2013-238292)	(71) 出願人	500517400
(22) 出願日	平成25年10月30日 (2013.10.30)		澤森 貞一
			大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町16番11号
		(72) 発明者	澤森 貞一
			大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町16番11号
		Fターム(参考)	4C101 BA01 BB02 BB04 BB05 BB06 BB11 BC09 BC27 BD02 BD09 BD17 BD18 BE01 BE02

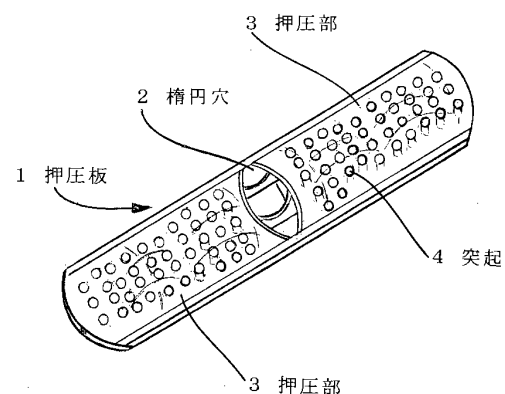
(54) 【発明の名称】 ツボの押圧具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 押圧具の突起部の不安定や突起による痛みを除去し、各ツボを的確に押すツボの押圧具を提供する。

【解決手段】 押圧板1の中央部に逆アーチ形の楕円穴2を設け、その両側の押圧部3の表面に半円状に連ねた複数の突起4を設けたことを特徴とするツボの押圧具。使用するときは、仰向きで立て膝をして、楕円穴2を背骨に合わせて腰を下ろすと、その背骨の両側を押圧し、立て膝を左右交互に倒すと、広範囲にツボを押圧できる。背中の上部に移るときは、左右の手で押圧板1を移動させる。背骨は、S字状に湾曲しているので、押圧板1を半円状にすると身体に最も適応する。楕円穴2は、力が加わると歪み、押圧板1が身体に密着して背中が反り返ると身体の力が抜け、突起による痛みも半円状に並ぶ各突起4に分散して、突起の痛み等がとり除かれる。背中や腰以外にも後頭部や足踏みなども使用可能である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

押圧板の中央部に逆アーチ形の楕円穴を設け、その両側の押圧部に半円状に連ねた突起を設けたツボの押圧具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、押圧具の突起部を半円形状と曲線にして身体のツボの押圧が広範囲できるツボの押圧具に関するものである。

【背景技術】

10

【0002】

従来、身体のコリや疲れをとるためには、主に突起の付いた押圧具などを利用して筋肉のコリなどをほぐしていた。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

これは、次のような問題点があった。

(イ) 突起の位置が大まかなため、身体を支えるのが不安定で、肝心のコリや疲れのある各ツボを的確に押圧することも難しかった。

(ロ) 各押圧具の使う範囲が限られていた。

20

(ハ) 突起による痛みをとり除くことは不可能だった。

本発明は、以上の問題点を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

押圧板の中央部に逆アーチ形の楕円穴を設け、その両側の押圧部に半円形状に連ねた突起を設ける。以上の構成よりなるツボの押圧具である。

【発明の効果】

【0005】

本発明により、身体の大部分に押圧が可能となり、突起部の不安定や突起による痛みもとり除くので、これまでの使用者の苦痛を解決する。

30

しかも、ツボに的確に刺激することができる。

【図面の簡単な説明】

【0006】

【図 1】 本発明の斜視図

【図 2】 本発明の使用状態を示す斜視図

【発明を実施するための形態】

【0007】

以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ) 細長い半円状の押圧板 (1) の中央部に、貫通させた逆アーチ形状の楕円穴 (2) を設ける。

40

(ロ) 楕円穴 (2) の両側の各押圧部 (3) の表面に、半円状に連ねた小さい細目の突起 (4) を複数設ける。

(ハ) 各突起 (4) の上部は、順を追って並んだ曲線からなる。

本発明は、以上の構成よりなっている。

本発明を使用するときは、仰向きで立て膝をして、楕円穴 (2) を背骨に合わせて腰を下ろすと、その背骨の両側を押圧する。そして、立て膝を左右交互に倒すと、広範囲にツボを押圧できる。なお、背中の上部に移るときは、左右の手で押圧板 (1) を移動させる。この押圧の動作と共に次のようにして、突起の痛み等がとり除かれる。

背骨は、S 字状に湾曲している。そこで、押圧板 (1) を半円状にすると身体に最も適応する。また、楕円穴 (2) は、力が加わると歪み、押圧板 (1) は身体に密着する。

50

したがって、押圧板（１）で背中が反り返ると、身体の力が抜けると同時に、突起による痛みも半円状に並ぶ各突起（４）に分散する。

このとき、痛みや突起部の不安定はとり除かれる。

この結果、痛み等が身体に負担となることはない。しかも、押圧具一つで、背中や腰以外にも後頭部や足踏みなど可能である。なお、本発明の押圧板（１）の形は、板状でも中央部に楕円穴（２）を設け、その両側の各突起（４）を半円状に連ねて複数設けるなら、効果が多少は少なくとも目的を達することはできる。

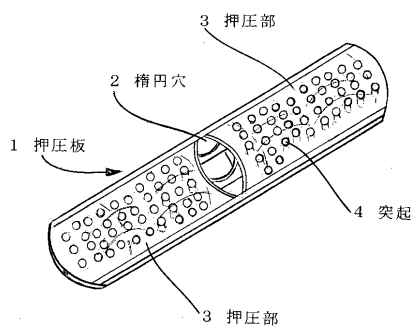
【符号の説明】

【０００８】

- １ 押圧板
- ２ 楕円穴
- ３ 押圧部
- ４ 突起

10

【図１】



【図２】

